



# 八千代松陰のICTを活用した学び

## 生徒一人一台の情報端末を活用中

本校では、平成29年度入学生から全員に情報端末(Chromebook)を購入していただき、授業をはじめとしたいろいろな場面で活用しています。

### Chromebook

キーボード付きのシンプルなコンピュータで、安全性が高く、価格が手頃で管理しやすいことが特徴です。本校では将来必要となるタイピングスキルも身につけるため、Chromebook(タッチパネルモデル)を採用しています。

### G Suite for Education

Googleが提供するG Suite for Educationは、アメリカの名門大学や国内の多くの大学で採用されている教育機関向けのツールです。課題や学習状況の管理やフィードバックの提供などができる「Classroom」という機能を備えていることが最大の特徴です。

## G Suite for Education の活用例



生徒と教員の双方向の連絡ツールとして活用



グループ活動において文書やスライドの協同編集ツールとして活用



授業で使った文書やスライドなどの資料を共有し、自宅での復習に活用

## 教室常設のプロジェクタ

プロジェクタを使うことで、言葉では理解しづらい教材を動画や図などで解説できるほか、発表の機会を増やすことにより生徒個々のプレゼンテーション能力を高めるといった様々な利点が生まれています。



## アダプティブラーニング

家庭学習や個別学習の充実のために動画学習アプリ「スタディサプリ」を導入しています。単元ごとの講座で生徒の習熟度に応じた学習をサポート。1講座15分ほどで、始業前などの隙間時間を利用して学習している生徒も多くいます。



八千代松陰学園 八千代松陰中学校  
Yachiyoshoin gakuen 八千代松陰高等学校



# 変わりつつある大学入試

## 2020年度から 大学入試が変わる！

2020年度から、大学入試が変わることをご存じでしょうか？  
文部科学省が現在進めている「高大接続システム改革」では、より能動的な学びが求められ、学校の教育から大学入試までが2020年度を機に大きな変化を迎えます。その中でも皆さんにぜひ知っておいていただきたい注目を3つご紹介します。

### 注目点1：大学入試センター試験から、 大学入学共通テスト（仮称）へ

2020年度の入試から従来の大学入試センター試験が廃止され、新たに「大学入学共通テスト」が始まります。国語・数学ではマークシート方式だけでなく、記述式の問題も採用される予定です。

### 注目点2：求められるのは「学力の3要素」

改革に伴って、求められる学力の要素も変わってきます。これまでの知識を暗記し応用するという学力ではなく、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」という3つの要素が、重要なスキルになります。

### 注目点3：英語は2技能評価から4技能評価へ

英語は「聞く・読む」から、「聞く・読む・話す・書く」の4技能を総合的な能力として評価されるようになります。また、各大学が入試において、英検やTOEICをはじめとした民間の資格・検定試験を活用することも検討されています。

## 八千代松陰の 取り組み

これらの入試改革、そして教育改革について、すでに本校では下記のような取り組みを行っています。

### 注目点1：年間2回の小論文模試（高校1、2年生）

入試改革に先駆け、平成21年度より小論文模試を実施しています。模試受験までの一週間を小論文週間とし、「記述

力・論述力」に加え「思考力・判断力・表現力」を徹底強化しています。

### 注目点2：ICTの活用で効果的かつ経済的な受験対策

個々の進度にあわせた「スタディサプリ」の活用により塾や予備校に通う必要がありません。また「Classroom」の活用でオンラインでの個別指導も可能です。ICTを最大限に活用し、今後多様化していく大学入試にピンポイントで対応していきます。

### 注目点3：英語の検定試験を積極導入

平成23年度より、スコア型英語テスト「GTEC for Students」を全学年で実施。「英検」「TEAP」なども積極的に導入し、「話す・書く」をふくむ、英語で求められる4技能の強化を奨励しています。

### 注目点4：CBT（Computer Based Testing）への対応

新たな入試では、TOEFLや海外の試験にも採用されているコンピュータを使い、マウスやキーボードで解答するCBTの導入も検討されています。CBTではキータイピングの技能も重要と考え、「e-typing pro」というツールを利用し、タイピングスキル向上を図ります。

## 大切なのは、 「デジタル一辺倒にならないこと」

本校では、1978年創立時からの教育目標の一つとして、「明日の国際社会を担う個性豊かな青少年の育成を目指す」ことを掲げています。

これらの取り組みは、入試改革への対応だけでなく、従来から本校がめざす「一人ひとりの持ち味を生かす教育」に基づいて行っているものです。ICTの全面的な導入もその一環であり、デジタルの利点とアナログの良さを両方を取り入れ、情報の「消費者」ではなく、「生産者」となることを目標としています。

情報化の進展に主体的に対応できる力を身につけることで、変化の早い時代においても生き抜いていける「ハイブリッドな力」をもつ生徒を育成していきます。